

用語集

あ 行

AI Cube (アイキューブ)

愛知県国民健康保険団体連合会が独自に開発した医療費分析システムとして、ポータルサイトを構築し、国保データベースシステムでは出力されない帳票を提供しています。

愛知県医療費適正化計画

国が定める全国医療費適正化計画・医療費適正化基本方針を踏まえて、愛知県が作成する、県民の健康の保持と医療の効率的な提供を推進するための計画。第3期計画の計画期間は平成30年度からの6か年です。

アウトカム

「成果」を意味し、「事業を行なった結果どうなったか」などを評価する指標として用います。

アウトプット

「どれだけやった」といった直接的に発生した結果、事業実施量を評価する指標として用います。

悪性新生物

悪性の細胞が体内で発生し、臓器内で増殖するとともにリンパ節やほかの臓器にも転移して、生命にまで重大な影響を与えるような腫瘍で、いわゆる「がん」のことをいいます。原因はまだ不明で、ウイルス、遺伝素因、化学物質、放射線などが関係していると考えられています。日本人の死因の第1位で、全体の約3割を占めます。

あんジョイプラン

老人福祉法の規定に基づく老人福祉計画として策定する「高齢者福祉計画」と、介護保険法の規定に基づく「介護保険事業計画」を合わせた計画です。安城市版地域包括ケアシステムの推進、介護予防と社会参加の促進、医療と介護の連携、認知症高齢者に対する支援に努め、地域の実情に合ったきめ細かな施策の取組みの推進を行っていきます。

か 行

虚血性心疾患

心筋梗塞や狭心症など、心臓の筋肉（心筋）に栄養や酸素を運んでいる血管に動脈硬化が起こり、血流が悪くなって起こる障害で、狭心症は酸素不足の状態が一時的で、回復するのに対し、心筋梗塞は冠状動脈が完全に塞がって、その先の血流が途絶えて心筋が壊死してしまう病気です。

高血圧症

動脈の血圧が正常範囲を超えて高くなった状態を高血圧といい、この状態が持続しているものを高血圧症といいます。

後発医薬品（ジェネリック医薬品）

先発医薬品（新薬）の有効成分そのものに対する特許である物質特許が切れた医薬品を他の製薬会社が製造・供給する医薬品で、先発医薬品と同等の有効成分・効果を持ちます。先発医薬品が研究や実験などの開発に膨大な費用を要するのに対し、後発医薬品は開発費が抑えられるため、一般的に低価格です。

高齢化率

65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合です。

国保データベース（KDB）システム

国民健康保険中央会が開発したデータベースシステム。国民健康保険団体連合会と市町村保険者等を専用線で結び、特定健康診査・特定保健指導、医療、介護等の各種データを管理及び活用することで、地域における重点課題を明確にすることなどができます。

さ 行

ジェネリック医薬品

先発医薬品（新薬）の有効成分そのものに対する特許である物質特許が切れた医薬品を他の製薬会社が製造・供給する医薬品で、先発医薬品と同等の有効成分・効果を持ちます。先発医薬品が研究や実験などの開発に膨大な費用を要するのに対し、後発医薬品は開発費が抑えられるため、一般的に低価格です。（前述 「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」再掲）

脂質異常症

従来、総コレステロール、LDLコレステロール、中性脂肪のいずれかが基準より高いか、「善玉」とされるHDLコレステロール値が基準より低い場合を総称して「高脂血症」と呼んできました。しかし、善玉コレステロール値が低い場合も「高脂血症」と呼ぶのは適当でないとして、平成19年4月に日本動脈硬化学会では病名を「高脂血症」から「脂質異常症」に変更しました。

疾病分類表

疾病分類表は、わが国の疾病罹患の状況を概括できるように推定患者数を基準にして、大分類、中分類及び小分類がそれぞれ独立し、分類表としての形式を統一したものです。

循環器疾患

広義には循環器の疾患であり、主な循環器疾患には、高血圧、虚血性心疾患、不整脈、狭心症、心筋梗塞、心筋症などがあります。

新生物

腫瘍（しゅよう）と同義で、組織、細胞が生体内の制御に反して自律的に過剰に増殖することによってできる組織塊のことをいいます。

腎不全

腎不全は、軽い方から腎機能障害、腎不全、尿毒症に分類されます。正常の2分の1以下に落ちている段階あたりから腎不全といえます。

腎不全には、急性腎不全と慢性腎不全があります。慢性腎不全は、慢性の病気によって、徐々に腎機能の働きが低下していくものです。慢性腎不全の原因は、慢性腎炎、糖尿病性腎症、腎硬化症、嚢胞腎がありますが、最近では、糖尿病からくる糖尿病性腎症が増えています。

生活習慣病

食生活、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が、その発症・進行に関与する疾患群のことを指し、肥満症、2型糖尿病、脂質異常症、高血圧症、虚血性心疾患、脳卒中などが該当します。

日常生活の中で適度な運動、バランスの取れた食生活、禁煙を実践するなど、個人が生活習慣を改善することで予防可能と言われていています。

生活の質（QOL（クオリティ・オブ・ライフ））

一般に、一人ひとりの人生の内容の質や社会的にみた生活の質のことを指し、ある人がどれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生に幸福を見出しているか、ということをも尺度としてとらえる概念です。

た 行

第2次健康日本21安城計画

国の「健康日本21（第2次）」、県の「健康日本21あいち新計画」を受けて策定した健康づくりの方針を示す計画で、期間は平成26年度からの10年間です。

市民一人ひとりが生涯にわたり健康を自己管理していく力を高め、自らの健康づくりを継続して実践することを目指しています。あわせて、社会全体で相互に支えあいながら健康づくりを実践できる環境を整えていきます。

第8次安城市総合計画

自治体経営の最上位に位置づけられる計画であり、健康や福祉、都市計画、教育、産業など、行政が携わる全分野の主要な施策の中長期的な方針を示すもので、期間は平成28年度からの8年間です。

糖尿病

血液中のブドウ糖の濃さをコントロールする「インスリン」のはたらきが悪くなり、高血糖の状態が続く疾患です。膵臓でインスリンを作り出すβ細胞が破壊され、インスリン分泌がほぼゼロになってしまう「1型糖尿病（インスリン依存型糖尿病）」、インスリン分泌が低下しているもののゼロではない「2型糖尿病（インスリン非依存型糖尿病）」、ほかの病気の影響で発症する「2次性糖尿病」の3つに大別されます。日本でほぼ8割以上を占める「2型糖尿病」は、「生活習慣病」のひとつとされています。

特定健康診査

平成20年4月から医療保険者に義務付けられた、40歳～74歳の加入者を対象として実施する健診です。

メタボリックシンドロームに着目した、腹囲計測（内臓脂肪面積）、血圧測定、脂質検査、血糖検査などの項目を検査することで、生活習慣病のリスク保有者を抽出します。

特定保健指導

特定健康診査の結果により生活習慣病発症のリスクがある者に対して行います。生活習慣病予防の徹底を図るため、特定健康診査と併せて医療保険者に義務付けられています。

対象者自身が健診結果を理解して、体の変化に気づき、自らの生活習慣を振り返り、生活習慣を改善するための行動目標を設定するとともに、自らが実践できるように支援し、対象者が自分の健康に関するセルフケア（自己管理）ができるようになることを目的として実施しています。

な 行

内分泌、栄養及び代謝疾患

下垂体・甲状腺・副腎などの内分泌腺機能異常による内分泌疾患と糖尿病・脂質異常症に代表される代謝性疾患のことです。

脳血管疾患

急激に意識障害、神経症状があらわれる病態。脳出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、クモ膜下出血などがあり、それぞれに多くの原因疾患があります。脳出血の大部分は高血圧性脳内出血で、脳梗塞は脳血栓と脳塞栓に分けられ、脳塞栓の原因としては心疾患がもっとも多いとされています。

は 行

法定報告

保険者が国に提出する特定健康診査等の実施状況をいいます。

実施状況報告の対象となるのは、医療保険加入者のうち、特定健康診査の実施年度中に40～74歳となる者で、かつ当該実施年度の一年間を通じて加入している人です。

ま 行

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）

生活習慣病の代表格に肥満症、高血圧、糖尿病、脂質異常症があります。これらの疾患は肥満、特に内臓に脂肪が蓄積した肥満が原因であるとされ、内臓脂肪により様々な病気が引き起こされる状態をメタボリックシンドロームといいます。高血圧、脂質異常、糖尿病など、一つひとつの症状は軽くても、複合すると心筋梗塞や脳梗塞のリスクが急激に増大することから注目されています。診断基準の必須項目として腹囲があり、男性85cm以上、女性90cm以上がメタボリックシンドローム診断のカギとなります。

や 行

有所見者

健康診断結果の数値が基準値より高いまたは低いなどの、異常所見があった人をいいます。

ら 行

レセプト（診療報酬明細書）

医療機関が医療費などを保険者に請求するための書類で、病名、薬剤名、検査名などの医療費の明細が記載されています。

第2期安城市国民健康保険データヘルス計画
＜保健事業実施計画＞

発行 安城市

編集 福祉部国保年金課

〒446-8501 愛知県安城市桜町18番23号

TEL : 0566-71-2230 FAX : 0566-76-1112